


わたしたちが運ぶのは未来です

 運輸省



みなと しみず

発行所

第五港湾建設局

清水港工事事務所

〒424 静岡県清水市日の出町7番2号

TEL 清水<0543>52-4146(代)

2,14

港湾物流シンポジウム開催

— 今後の清水港の

物流のあり方を論議 —



▲清水港の今後の方向づけを熱心に議論する港湾物流シンポジウム＝清水マリビルで

去る二月十四日(木)清水市日の出センターにおいて、「港湾物流シンポジウム」が運輸省第五港湾建設局清水港工事事務所と財港湾空間高度化センター主催で開催された。

冒頭、主催者を代表して中村所長があいさつに立ち、「清水港はコンテナ港として長年全国第六位のステータスを得ていたが、一昨年第七位に落ち、昨年はまだ統計が出ていないが八位になったとみられる。一方、新たなコンテナ基地も暗礁に乗り上げている」と、清水港の厳しい現状を指摘した上で「これを機会によりよい港づくりに参画してもらいたい」と呼び掛けた。

引き続きシンポジウムに先だち、川崎芳一氏(国際貨物流通協会専務理事)が「国際コンテナ輸送とターミナル施設の動向」と題して講演し、「ポーターレス時代の港湾は、

利用者のハード、ソフト両面のニーズに即座にこたえられるかの都市間競争の時代」と位置づけ、それだけの機能、スペース、情報のある港づくりをする必要があるとした上で、清水港の現状に対して「危機感を持って、一致団結することがスタート点となる」と指摘した。その後、同センターの石渡友夫常務理事がコー

ディネーターとなり、宮城島清水市長はじめ、行政・港湾関係、商工会議所などの代表により熱心に今後の清水港の物流のあり方について議論がなされた。

清水港周辺では、第二東名道路計画が具体化し、国際物流も製品輸入や船舶の大型化に対応した大型コンテナ基地や総合輸入ターミナルの整備が強く要望されている。

官民協力し、港湾計画を早期に実現することが、国際海洋文化都市清水市にとって重要であり、具体的な行動をおこしていくことで一致した。

当日は、行政や港湾、報道関係者、それに一般市民・学生も含め予想を上回る二百人が参加して、清水港の今後の方向づけを探る議論を深めることができた。

(リポーター・西藤補償調整官)



▲講演される川崎専務理事

女性の研究グループが 清水港見直しの提言

——マリソフオーラム21——

去る三月七日、八人が大勢集まる清水港への提言を求めて——と題したマリソフオーラム21（同実行委員会、清水港客船誘致委員会主催、静岡県清水港管理局など協賛）が清水マリソビル大ホールで開かれ、女性の研究グループから清水港を市民がもっと親しめる場にするため、ソフト面の具体的な提案が出された。

レデイス・マリソ・フォーラム（東恵子座長）は、県清水港管理局などが呼びかけて昨年九月、清水・静岡地区の女性二十三人をメンバーとした研究グループとして発足、今回その活動の締めくくりとして開かれ、当日は、イラストレーターの柳原良平さんの「船旅と寄港地の景観」と題した基調講演や講談「清水港と

咸臨丸」をチビッコ講師師田辺チビ鶴君（小学六年）が初めて披露するなど、市民四百人が参加して盛大に行われた。マリソビル会場



▲マリソフォーラム21=清水マリソビルで

2月1日付け 五建徳田技術次長 が就任!

第五港湾建設局技術次長が二月一日付けで異動になり、新しく徳田技術次長（前港湾

局付、タイ国政府派遣）が就任し、二月二十六日清水港工事事務所へあいさつに見えました。徳田技術次長は、職員へのあいさつの中で「清水港は伝統ある港であり、特に、昔実習生として一カ月ばかり勤めたこともあり大変懐かしい思い出がある。今後の清水港の発展のため、計画づくり、事業の推進に向けて皆さんと共に全力で頑張りたい」と語った。



▲あいさつする徳田次長

清水港OB会設立

二月五日清水港O・B会は、「五建清水会」として設立された。多くの事務所において発足しているO・B会は、清水港にはなかったわけであるが、設立世話人の努力により設立されることとなった。

会発足後は、清水港に勤務した方々の、心の故郷として活躍していくことを期待する会の趣旨、概要は次のとおりである。

- 一、名称 五建清水会
- 二、目的 会員相互の親睦と事務所の発展に協力する。
- 三、会費 会開催の都度徴収（千田庶務課長）

職場紹介④

〈第一工事課〉

工事課は三保半島中央部、折戸湾に面した海岸沿いに所在する。第一工事課長を筆頭に職員10名、二係より構成されている。所掌事務は契約された請負工事の施工方法・出来形・品質・工程・安全管理等のあらゆる面から請負者の指導を行っていき、清水港内の広範囲に現場を抱え職員の移動は監督

測量船『まさき』があたっている。平成二年度の工事は、富士見地区岸壁（7.5m）の新設、岸壁（12m）改良では劣化した棧橋コンクリートの補修、岸壁増深にあわせて内港航路沿地の浚渫、江尻岸壁（6.5m）改良でエプロンの拡幅、外港及び三保改良に伴うテトラポッドの製作据付、駒越宿舎の新築工事、又、御前崎港防波堤のケーソン製作も担当している。これらの契約件数は本官11件、分任官20件となる。工事課に隣接するケーソンヤード

からは今まで斜路を降りたケーソンは約200函に達し、清水の港造りの礎となり現在御前崎港の東西防波堤のケーソンを製作している。現場作業は気象海象の影響を受けることが多く、机上通りに進むことが少ないという面があり、臨機応変の対応をしなければ機を失することもある。このため不規則な勤務形態になることもあり、夜間作業の立ち会いになることも多い。しかし職員全体で協力し、健康管理にも充分気をつけて頑張っ



▲第一工事課のみなさん

長年の勤務大変 ご苦労様でした

工事課の竹田貞雄さん（技官・監督技術員・60才）と白石良さん（技官・監督技術員・60才）のお二人は、このたび、三月三十一日付けで定年退職されることになりました。

お二人の長年に亘る多大な功績と、無事定年を迎えられたことを心からお祝いするとともに、今後の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

5/21~5/22

第63回全国港湾大会

静岡市・清水市の
会場で開催(予定)

(社)日本港湾協会(岡部保会長)主催の第63回全国港湾大会(通常総会)が来る五月二十一日から二十二日の二日間、静岡市と清水市の両市で開催予定で、現在、地元運営委員会において準備を進めています。全国港湾大会は、昨年六月に富山市で開かれており、静岡県では昭和三十三年に開催されて以来のもので、今から期待されます。

駒越北宿舎

(RC、四階建)が完成

現在清水港の清水地区宿舎は、国有地のほか、民間の借地を利用しており、駒越北地区を除いては一戸から三戸が分散しているうえ木造で老朽化も進んでいることから、集約立体化を図るため、平成元年度より二年計画で駒越北地区に建設していた宿舎(鉄筋コンクリート造り・四階建八戸)が、内装工事も完了し、三月二十日に完成しました。

寄稿 「コンテナ」について

清水コンテナターミナル(株) 常務取締役 本多康男

今ではごく当たり前のコンテナも、今日の「コンテナ」として登場したのは昭和40年の初めに米國マトソン社が、太平洋航路にフルコンテナ船二隻を投入して、フルコンテナ・サービスをを行うと発表してからで、海運業界をはじめ荷主、港運業界等関係業界が「昭和の黒船来たる」と大騒ぎとなったのです。

- ① 梱包費の節約
 - ② 内陸輸送費の節減
 - ③ 輸送期間の短縮
 - ④ 船舶の運航スケジュールの安定により在庫調整が可能
 - ⑤ 貨物の損傷の減少
- 等のメリットがあるからですが、何と云っても、ドア・ツー・ドアによるデリバリーが可能なのが最大の理由でしょう。清水港は、富士山をバック



▲完成した駒越北宿舎

工場だより

御前崎工場
翼走ノジェットフォイル

にした天然の良港で日本三大美港の一つと云われています。このコンテナ時代を迎え、いち早く本格的な港湾改修が始まり、昭和41年には興津第一埠頭の一部分が始まり、同45年に北米西岸航路のコンテナの第一船が入港し、昭和56年の袖師第一埠頭の完成により、あらゆる港湾機能を有する国際貿易港として、順調な発展を遂げ現在に至っています。平成元年の取扱量は200万トン(12万個)を記録し、さらに増加が見込まれています。清水港は、夜間や休日のコンテナ荷役がセールスポイントとなっていますが、今後もこの24時間体制を維持し、背

御前崎工場長 大田 勲

洋上の新幹線とも言うべき高速旅客船「ジェットフォイル」試乗会が三月一日御前崎一田子港間で行われた。当日は雲が低く垂れこめ波浪が気になる生憎の天候であったが海上交通の関係者や御前崎近隣の政経人・県内の観光・旅行業者等、百人余りが試乗に参加した。

通過型観光から滞留型観光を目指す同町にとって県東部との海上交通のネットワーク化は観光地の相互活性化に結びつくものと期待され参加

後圏貨物の100%取扱可能な港湾として整備することが不可欠です。この為には、ますます大型化する船舶に対応した大規模コンテナターミナルを作り、質の高いサービスを提供することや、積極的なポートセールの展開による新たな航路開設への努力を続ける必要があります。

しかし清水港の水域は狭く、すでにコンテナやシャーシーの置場不足に悩まされています。このような課題に 대응するため、又港湾機能を最大限に發揮できるように新しいパースの実現と、市民に親しまれる「美しい」港湾づくりが、21世紀に向けての関心事です。

者の反応が注目される。

ジェットフォイルは、コンピュータで制御された水中翼船であるが、速力45ノット(時速83km)の高速で文字通り海上を滑る様に翼走する。乗り心地は新幹線と以ていて船酔いの心配は少ない。

駿河湾横断の航行は快適であった。航跡が紺碧の海に純白の糸を引く様に走り、技術の進歩と海上交通のあり様を再認識する一時であった。

船内テレビのリーダーが湾中央部に差しかかった頃、船は自動車並みの急ブレーキを



▲高速旅客船「ジェットフォイル」

感じた。コックピットの説明でイルカの群と遭遇したとのこと、衝突しても船体に支障は無いとのことであったが、海洋の生物を思いやる船長のやさしさをそこに見た。

半島と岬を結ぶ今回の試乗会、港づくりの新たなニーズをじかに知る体験であった。

下田工場

下田市制施行二十周年記念について

次長・栗田岩男

下田は、静岡県内十九番目の市として、昭和四十六年一月一日に施行されて以来満二十才を迎え、二月八日市民文化会館大ホールにおいて、内外の各界を代表する来賓招待者約六百人が出席して盛大に式典が挙行されました。

池谷市長は、市として誕生した当時は十万人観光都市構想が立てられ「伊豆の太陽都市」を目標に水道施設、清掃施設などの行政施設の拡充と都市づくりの推進にあたったこと。また、石油ショック後の省資源リサイクル運動が世界経済の主流となった時期に

私たち結婚しました！

このたび、工務課の杉栄一郎さん(31才)が松本洋子さん(28才)とめでたく結婚し、去る一月二十七日結婚披露宴が日本平ホテルにおいて行われました。幸せいっぱい二人は、翌日六日間のハワイ旅行に出発しました。心からお祝い申し上げます。



▲HANAUMA BAY beach park in HAWAII

市政を担当された青木前市長は、低成長期の苦難の市政運営をしつつ、将来発生を予告されている東海地震対策のため、耐震の教育施設整備をはじめ災害に強いまちづくりを努力をされたことなど、この二十年を振り返りながら、これからの十年を国際性豊かな生活を創造していく地域特性を活かしたまちづくりを進める指標として、新下田市総合計画を確定した。さらに個性的な資源を生かした下田を世界に向けて主張していく時代であり、交通アクセス整備の基幹となる伊豆縦貫自動車道の整備は、伊豆南部地域にとって正に第三の黒船と位置付けされる大事業であり、早期完成を地域に生きる人達と共に祈念する。二十一世紀に生

きる子供たちに何を遺し、何を受け渡していくかを、市民と共に語り尽くしていくとし、この二十周年を節目に二十一世紀に生きる若者への心からなる贈り物を整備し、人に優しいまちづくりを推進していきたいと述べられた。最後に出席者全員によって、今後の市政発展と二十一世紀への飛躍を誓う万歳三唱で式典を終了した。

下田市漁協の

金指組合長が勇退

新組合長に小川一郎氏就任

下田市漁業協同組合(組合員二千二百六十二名)は、二月二十三日平成三年度通常総代会を開き、とくに任期満了に伴う役員改選では、昭和四十九年から五期務めた金指専一組合長が勇退することになった。同組合長は、下田港防波堤建設工事に理解を示し漁業の振興と港湾の発展のため多大な貢献をされました。

後任の役員は、総代会及びその後の理事会(二月二十五日開催)において役員改選を行い、組合長理事に小川一郎氏、専務理事に渡辺盛氏をはじめとする理事15名、監事3名をそれぞれ選任しました。

ボウリング大会
長尾係長優勝！

二月二十八日(木)、狐方崎ヤングランドで行われた職場のボウリング大会は、参加者十七名が、二ゲームのトータル点数で、各賞を目指して熱戦を繰り広げた。

日頃の運動不足が影響してか、アベレージの低い人もいたが、全般的には良い成績であったと思われます。

去年の優勝者村松係長は、第四位に甘んじた。意外性(失礼)だったのは、西藤調整官

(去年は第七位)が二位に入賞し、優勝者の長尾係長を脅かしたことです。

参加者全員、気分転換が図られ、ストレスの解消にたつたと同時に職員相互の親交を深めることができ意義のある大会であったと思われた。

成績は左記のとおりです。

- 第1位 長尾宗夫 349点
- 2位 西藤重嗣 329点
- 3位 都田 豊 303点
- 4位 村松良彦 297点
- 5位 杉栄一郎 287点
- 6位 大草光男 272点
- BB賞 望月徳男 205点
- (リポーター)石川芳厚係長

清水港の動き

- 2月 8日 市制施行20周年式典(下田市)
- 8日 下田の浦船舶航行安全対策調査委員会(静岡)
- 14日 平成3年度事業実施会議(名古屋)
- 14日 港湾物流シンポジウム(清水)
- 19日 静岡インポートニュービジネスフェア(清水)
- 28日 港湾工事通常検査
- 18日 (御前崎・下田・清水)
- 21日 総合的な港湾空間形成に対応した防災対策のあり方に関する調査研究会(清水)
- 3月 4日 西伊豆MTP調査委員会(静岡)
- 5日 御前崎なぎさプラン幹事会(静岡)
- 6日 会計監査(清水)
- 7日 マリン・フォーラム21(清水)
- 14日 下田の浦船舶航行安全対策調査委員会(静岡)
- 15日 健康安全委員会(清水)
- 22日 御前崎なぎさプラン委員会(静岡)
- 4月 10日 清水港湾機関長会議(清水)
- 22日 会計検査
- 5月 25日 (清水・御前崎・下田)
- 21日 第63回全国港湾大会(清水)
- 22日 (清水)